

丹波市

令和
4年度

活躍市民による
まちづくり事業
応援補助金

実績報告集

まちづくり部市民活動課

はじめに

今後益々深刻化する少子高齢化や個人ニーズの多様化、地域コミュニティの希薄化など、本市を取り巻く社会は大きく変化を続けています。このような、多様化するニーズ、複雑化する地域課題に対応するためには、行政だけでなく、地域社会を構成する市民の皆さん、一人ひとりが地域の担い手として力を発揮することが必要です。

市民の皆さんが主体となった市民提案による新たな活動や活動のさらなる拡大を支援します。

1. 補助金の目的

市民の皆さんの提案による、公益的な活動を継続的に実施される団体に対し、その事業費の一部を補助することで、市民が主体となったまちづくりを支援することを目的とします。

2. 補助対象事業（事業内容、事業範囲）

次の項目すべてに当てはまる事業

- ① 新規事業であり、3年以上継続する見込みのある事業
- ② 既存事業に新たな取り組みを加えた事業（新たな取り組み部分だけが補助対象）
- ③ 丹波市の社会的、地域的な課題解決のための事業や地域の活性化につながる事業
- ④ 小学校区以上の地域を対象とした事業 ※青垣地域は旧小学校区とします。

3. 補助対象団体

次の項目すべてに当てはまる団体

- ① 市内に本拠地を置き、主として市内を対象に活動している団体
- ② 規約や会計を定めている団体
- ③ 非営利団体

4. 補助金の種類

■提案補助金

補 助 率 補助対象経費の3分の2以内（千円未満切捨）

上 限 額 30万円

審査方法 公開審査

補助限度 初回から3年まで

■応援補助金

補 助 率 補助対象経費の3分の2以内（千円未満切捨）

上 限 額 5万円

審査方法 書類審査

補助限度 1回のみ

5. 補助対象経費

- ・謝金、講師旅費、消耗品費、印刷広告費、通信運搬費、保険料、委託料、使用料 など

◆令和4年度実績

【 交付団体 】 14団体
 【交付決定額】 3,073,000円
 【交付確定額】 2,835,000円

◆令和4年度交付団体一覧

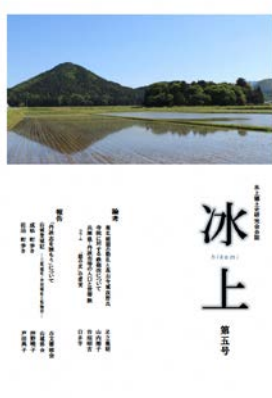
No.	団体名	事業名
1	上久下地域自治協議会	檜皮葺の郷 上久下のPR活動
2	観光まちづくりの会	健康長寿日本一をめざす「暮らしの広場づくり」
3	丹波フォトラリー実行委員会	第1回ふるさと丹波フォトラリー in KASUGA
4	一般社団法人 丹波青年会議所	丹波で見つける+1ピース SPLASH!!丹波!!2022
5	氷上郷土史研究会	丹波市のゆたかな歴史を知ろう
6	たんばDE第九実行委員会	たんばの第九 2022 演奏会
7	たんば・ベトナム交流促進委員会	たんば・ベトナム交流促進事業
8	タンバックスフェスティバル実行委員会	タンバックスフェスティバル2022
9	「注文をまちがえる喫茶店in丹波」企画実行委員会	注文をまちがえる喫茶店「カフェだんない」事業
10	みんチャロン2019実行委員会	みんなのチャレンジトライアスロンin丹波青垣2022
11	市島町史実研究会	「歴楽ICHIJIMA」の事業推進
12	NPO法人住まいの環境研究所	健康住宅に関わる研究と普及を図り指導者の育成をする事業
13	丹波市商工会青年部氷上支部	氷上さくら公園ライトアップイルミネーション
14	鴨庄地区自治振興会	鴨庄小学校閉校記念行事

No.	1	実施団体名	上久下地域自治協議会		区分	提案補助金	
事業名称	檜皮葺の郷 上久下のPR活動						
事業費	1,051,210円	補助金確定額	300,000円		実施場所	丹波竜の里公園	
事業目的	丹波竜の里公園の一角に檜作りの東屋を建て、その屋根を檜皮で葺くワークショップを開催する等、実演や体験を通したPR活動を実施していくことで、恐竜化石ファンだけでなく檜皮葺のファンも増やして地域の活性化に繋げる。檜皮葺にスポットを当てた他に類をみないワークショップを開催することで、地域内外の多くの人たちにユネスコ無形文化遺産の素晴らしさを認知してもらうことができる。						
事業内容	日時：令和4年度5月・8月・10月・11月の土日に各2日間、合計8日間実施。 方法：3年度に建てた東屋1基と、4年度に建てた2基目の屋根を使ってワークショップを開催した。 内容：参加者は足場に登り、実際の屋根の高さで檜皮葺職人の指導のもと、檜皮を竹釘で打つ体験をしてもらった。使う檜皮に参加者の名前やメッセージを書いてもらうことでより参加意識が高まった。						
事業の成果感想等	ワークショップの開催を通じて、地元の檜皮葺企業も上久下地域自治協議会も積極的にPR活動を推進することができた。初回から毎回参加してくれている市内の小学生もあって、檜皮葺ファンも徐々に増えつつある。外国出身の人も何人か訪れ、植物資源を使った伝統技術に興味津々の様子だった。若手技術者がワークショップ参加者に対応することで、檜皮葺に関心を持っている人たちが沢山いることを肌で感じてもらえたと思う。昨年、関連会社の跡継ぎが二人Uターンしてきたのは嬉しい出来事だった。						
参加人数	大人	102人	高校生	人	合計	181人	
	中学生	人	小学生以下	79人			
	入場者			人			
事業写真							
	ワークショップ会場の様子			受付で檜皮にメッセージを記入			
							
	足場の上で檜皮葺に挑戦			屋根の上まで登り檜皮を葺く様子			

No.	2	実施団体名	観光まちづくりの会		区分	提案補助金	
事業名称	健康長寿日本一をめざす「暮らしの広場づくり」						
事業費	697,220円	補助金確定額	291,000円		実施場所	ヒルデガルテン (丹波市柏原町)	
事業目的	丹波市は「健康長寿日本一」の町を目指すことを定め、神戸大学と「認知症予防・健康寿命長寿延伸のための介入共同研究」を継続されています。観光まちづくりの会では、まちづくりの視点から地域住民の健康寿命を延ばし、地域経済の活性化に繋げていくことを目的に事業に取り組んでいます						
事業内容	ヒルデガルテンで講座生とともに、春と秋（4月10月）は種からハーブを育てます。そして、その講座生と一緒に育てたハーブを豊富に使い、5月11月は生活に役立つ「ハーブ活用術」を提案するハーブクラフトの講座を行いました。6月と12月は「芳香蒸留水」をテーマに、ヒルデガルテンで育てたハーブや丹波市内の木材で蒸留することでハーブ蒸留水の芳香成分を学び、実際に蒸留水を採取し、それに触れ体感していただきました。 ○下記のイベントも追加で行いました。実施目的は、ヒルデガルテンをイベント会場にし、ハーブを使ったプロダクトを展開しました。それを参加者に無料で配ったり、またはマルシェで販売することでの知名度アップをはかりました。 6月 「TAMBA LA SAISON DES SAISONS（丹波四季折々）」 8月 北欧ヴィンテージ食器で味わうフィンランド「夏のごちそう」の会 11月 世界を旅するマルシェ						
事業の成果感想等	当初計画していた講座生の募集人数をはるかに超える参加人数があった。そのことから丹波市地域住民へ薬草の健康方法を取り入れたセルフケアの促進のみならず、薬草の商品化などを促し、環境保全も視野に入れた特産加工などに取り組む地域づくりの活動・発展も見込めるのではないかと考えている。						
参加人数	大人	50人	高校生	人	合計	250人	
	中学生	人	小学生以下	人			
	入場者		200人				
事業写真	 種まき 土づくりをしている様子  収穫をしている様子  講座を受けている様子  蒸留水の材料を加工している様子						

No.	3	実施団体名	丹波フォトラリー実行委員会		区分	提案補助金	
事業名称	第1回ふるさと丹波フォトラリー in KASUGA						
事業費	965,400円	補助金確定額	300,000円		実施場所	春日町一円	
事業目的	丹波市春日町の魅力ある場所を一覧にまとめ、参加者に巡っていただきました。参加者は自分の足で巡り魅力的な場所に行き着くので、道中の景色や地元住民とのふれあいも含め忘れる事ができない思い出となり、丹波市の魅力発信となります。						
事業内容	市外の参加者には、春日町の魅力ある場所を一覧にまとめた地図により参加者に歩いて巡っていただきました。山々や田畑の田園風景や観光パンフレットに掲載の無いコアな魅力に触れ「ふるさと丹波」を感じ、また再訪したい場所と感じ取っていただいたと思います。 また市民の方には、普段当たり前の場所がどういう背景で魅力的なスポットなのかをフォトロゲイニングを通じ再発見し、誇れる「ふるさと丹波」を感じ取っていただきました。						
事業の成果感想等	今回は特に都市部の方に丹波市春日町を知っていただくために計画しました。結果、参加者78名（内市外67名：市内11名）の方は自分の足で巡り、魅力的な場所や興味のある場所に行き、道中の景色や地元住民とのふれあいも含め忘れる事ができない思い出となりました。今回の参加により丹波の魅力を体験しリピーターとして今後も参加される期待が持てました。 また、丹波を離れた若者がもう一度帰りたい・住みたいと思える場所となる事についても期待が持てたと感じました。						
参加人数	大人	70人	高校生	人	合計	78人	
	中学生	人	小学生以下	8人			
	入場者		78人				
事業写真	   						

No.	4	実施団体名	一般社団法人丹波青年会議所		区分	提案補助金
事業名称	丹波で見つける+1ピース SPLASH！！丹波！！2022					
事業費	2,063,000円	補助金確定額	300,000円	実施場所	兵庫県立丹波年輪の里	
事業目的	・SPLASH！！丹波！！を開催することで若年層や子育て世代や子供達に楽しく丹波の魅力を知ってもらい参加した子ども達が丹波を出て、ふと丹波を思い出したときに「帰って来たい」と思ってもらえるイベントを開催する。 ・丹波市外に発信することで丹波市への関係人口を増やし、まちの活性化につなげる					
事業内容	丹波年輪の里の敷地を貸し切り、宝の地図に見立てた丹波最大級の水遊びのお祭りを開催。 ≪SPLASHマルシェ≫丹波内外から43店舗の出店 ≪SPLASHエリア≫遊びのなかに丹波の魅力や伝統工芸を散りばめる →竹細工ブースで子供達が竹の水鉄砲を作り水遊びエリアで遊ぶ →年輪の里内に散らばった宝の番人を探しだし課題をクリアするポイントラリー。獲得したポイントで丹波布の染色でオリジナルマスクが無料で制作出来る ・ひのきのボールプール ・ふわモコウォータースライダー3体 ≪SPLASHステージ≫ ・ハプマシーンを使った泡モコタイム 丹波市内外で活躍されている8組の方々をお呼びしたステージの開催。 鴨庄っ子太鼓・氷ノ川太鼓・柏原高校・氷上西高校・一心貫等					
事業の成果感想等	SPLASH！！丹波！！2022に関わっていただいた、行政・各諸団体の皆様・各報道機関のご協力を得たことで、コロナ禍にも関わらず丹波市内外から約3,000人の来場されました。来場された方々も思いっきり丹波の魅力と水遊びを楽しんでいただけました。これも丹波青年会議所だけではこのような効果は見込めなかったことです。丹波市の魅力発信と丹波市への関係人口増加という目的も達成できたと自負いたします。最後に関わっていただいた各諸団体に感謝いたします。					
参加人数	大人	900人	高校生	100人	合計	約3000人
	中学生	500人	小学生以下	1500人		
	入場者			3000人		
事業写真	 ↑ SPLASHステージ  ↑ SPLASHタイム  ↑ SPLASHエリア  ↑ SPLASHマルシェ					

No.	5	実施団体名	氷上郷土史研究会	区分	提案補助金
事業名称	丹波市のゆたかな歴史を知ろう				
事業費	459,346円	補助金確定額	276,000円	実施場所	氷上住民センターなど
事業目的	●丹波市の歴史を知ることの楽しさや大切さを多くの人々と共有する ●失われつつある古文書や身近にある文化財を調査研究し、成果を発表することにより、保存につなげたり次世代へ引継いだりする				
事業内容	(1) 『丹波志』を読もう 神戸大学松下先生のご指導により寛政六年（1794）に成立した丹波地域の地誌を 現代語訳し、地元の情報も盛り込んだカラー資料を作成 フィールドワークも行う (2) 会誌『氷上』の充実 (3) ふすま下張り文書や古文書の調査と研究発表				
事業の成果 感想等	(1) 『丹波志』を読もう 市島町史実研究会との提携により、市島町上田地区にてフィールドワークと講座を実施 前年度から続いていた活動により、沼貴庄と葛野庄の現代語訳や資料作成を達成した (2) 会誌『氷上』の充実 兵庫県立図書館より要請があり、1号～5号までが収蔵となった 誌に関連する研修実施 (3) ふすま下張り文書や古文書の調査と研究発表 ふすまを剥がす作業だけでなく解読発表も充実→松下先生による添削、兵庫史学会誌掲載				
参加人数	大人	304	高校生	人	合計 304人
	中学生	人	小学生以下	人	
			入場者	人	
事業写真	  『丹波志』を読もう   『氷上』第五号 文 書 調 査 ふ す ま 円 通 寺 下 張   				

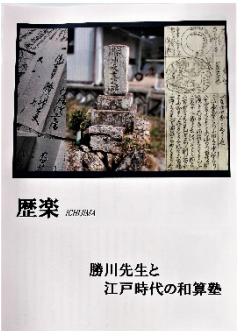
No.	6	実施団体名	たんばDE第九実行委員会	区分	提案補助金
事業名称	たんばの第九2022（演奏会）				
事業費	1,950,000円	補助金確定額	300,000円	実施場所	ライフピアいちじま大ホール
事業目的	・丹波にプロのオーケストラメンバーを招き、市民が幅広く参加し、又コーラスグループを横断した、本格的なコンサートを実施し地域の活性化を図る。 ・「第九演奏会」をその地域の文化のバロメーターと位置づけ、地元で活躍する演奏家、また子育てや仕事の関係で能力を持ちながら歌う機会のない、隠れた演奏家を公募発掘し、地域の人々を盛り上げ良質な演奏を市民に提供する。 ・子供たちの演奏機会の充実による育成、丹波市出身の演奏家による公演、音大を卒業し丹波に帰省した方の演奏機会の創出なども併せて取り組み、丹波市の音楽文化水準を高める活動をする。 ・「たんばの第九演奏会」が「丹波の冬の風物詩」となり、丹波市における音楽文化の豊かさを内外に発信、アピールしていく。全国に誇れる「音楽の街、丹波市」を目指す。				
事業内容	「たんばの第九2022」 2022年12月18日 ライフピアいちじまにて開催。 プロのオーケストラを招き、幅広く地元の合唱メンバーを募集し、ベートーヴェンの交響曲第九番（合唱付き）の演奏を開催。第一部では、音大卒（ヴァイオリン専攻）で丹波市に戻り就職した方にオーケストラとの協演をしてもらった。 （協力事業）「ハートフルコンサート」 2022年9月25日 丹波の森公苑にて開催。 丹波市出身プロ演奏家と地元選抜学生による協演演奏会				
事業の成果感想等	・アンサンブル神戸（管弦楽団）との緊密な関係の構築（継続的な演奏会実施へ） ・昨年より合唱団員を増やしたことにより、他市の第九経験者や全くの初心者が参加するなど、当初の目的であった「隠れた愛好家、演奏家に活躍の場を提供」できるきっかけが定着。地域の人々の活性化につながる。 ・第1部でオーケストラとの協演という貴重な体験をしてもらった、音大卒の地元若手演奏家には「再度ヴァイオリンを勉強して地元で演奏を続けていきたい。良いきっかけをもらえた」と喜んでもらえた。 ・アンケートではどのステージも80%以上の方が「良かった」と回答。79%の方が「次もぜひ聴きたい」「合唱に参加したい」と回答されたように、継続することで当初の目的である「たんばの風物詩」になっていくと確信した。 ・取り組みがテレビに取り上げられ、大いに丹波市のアピールになった。				
参加人数	大人	100人	高校生	0人	合計 565 人
	中学生	0人	小学生以下	0人	
	入場者			465人	
事業写真					

No.	7	実施団体名	たんば・ベトナム 交流促進委員会		区分	提案補助金
事業名称	たんば・ベトナム交流促進事業					
事業費	391,500円	補助金確定額	261,000円	実施場所	丹波市	
事業目的	（目 的） 外国籍の方々に、住民として必要な情報をリアルタイムにお届けするとともに、丹波の文化や歴史などを知る機会を提供して、地元民とのふれあいと友好を築くことを目的とする。 （効 果） 必要な情報を得る事によって、積極的に活動する事が可能になり、お互いの理解と友好を共有できるようになる。					
事業内容	1. ベトナム語放送（FM805たんば）毎週土曜日朝8時より58分及び再放送を日曜日夜8時より実施して、ベトナム人に丹波の生活情報を提供し、地元住民との交流を図る。（前半を地域情報などをベトナム語で、後半は日本語で交流事業について地元の方の参加を呼び掛ける。音楽とニュースを中心とした番組） 2. ベトナムの民族衣装アオザイを着て一緒に踊る。ベトナム人の模範演技と指導により地元住民との連帯を図る。 練習はzoomやyoutubeを活用して行う。Covid-19の状況をみて公民館や地域づくりセンター等にて合同練習を行う。そして、地元の太鼓などの文化や芸術との交流を図り、8月半ばに合同イベントを実施する。 3. ALT（語学補助教師）を中心に、音楽、ダンス、スポーツの交流を促進する。 地元の対象は、中学生、高校生との学外活動を中心とし、一般の参加も歓迎する。国籍に関係なく誰でもが参加でき、学業ではなく、普段の交流の中で自然な英語でのコミュニケーション力の向上を目指す。また、ALTの方々には日本語のコミュニケーション能力の向上を目指す。・12月下旬の冬休み期間中に、合同イベントを実施					
事業の成果 感想等	1.FM805たんばの番組（Viva Vietnam）は、番組として定着し、聴衆も増えてきている。日本語の部分にも地元の方の参加が1名だが初めて参加された。今後音楽部門では拡大できると思われる。しかし、その他の部門は、コロナオミクロン株の拡大によって大きな影響を受けた。 2. 夏のイベントに向けて音楽バンドの編成に準備をしていたが、感染拡大がこれまでより格段に拡がり、丹波地域でも毎日のように感染者が続出した。イベントを断念し、秋10月に開催される山南町の「薬草の里まつり」に歌とおどりをすべく参加を申し込んだ。しかし、このイベントは開催されたものの、直前になってベトナム人のグループに感染者が出て、予定していた出演ができなくなってしまった。あらゆる活動がその都度増える感染者によって、中止を余儀なくされた。交流を企画する我々は、まさか参加者の自己責任に委ねるわけにもいかず、活動は更に厳しくなっているのが現状だ。当初積極的に活動して下さったベトナム人の方もすでに帰国されている人もでている。当委員会は来年度の活動が可能かどうかの瀬戸際を迎えている。					
参加人数	大人	7	高校生	人	合計	7人
	中学生	人	小学生以下	人		
	入場者		人	人		
事業写真	※写真なし					

No.	8	実施団体名	タンバックスフェスティバル 実行委員会		区分	提案補助金	
事業名称	タンバックスフェスティバル2022						
事業費	350,695円	補助金確定額	197,000円		実施場所	JR石生駅 西口広場 及びロータリー周辺	
事業目的	・JRを活用することにより、外部から石生駅に人が集まるような仕掛けを行う。同時に近隣の住民にも楽しんでもらうようなイベントを実施することで、石生駅の活性化を図る。 ・JR利用促進。石生駅周辺の活性化。生郷地域の魅力の発信と再発見。丹波市のファン、リピーターが増える。						
事業内容	開催日：2022年6月5日(日) 会場：JR石生駅 西口周辺 石生駅西口広場及びロータリー周辺を利用し、丹波市の地酒と食をテーマにしたフェスティバルを開催。 ・日本一低い谷中中央分水界～いそ部神社を巡るノルディックウォーキング ・パワースポット探訪ツアー（遊歩道、いそ部神社と水分れ公園へお散歩会） ・探訪ツアー参加者に、水分れフィールドミュージアム無料観覧券を配付 ・水分れ茶屋とのコラボ（探訪ツアー参加者にドリンク券配布） ・メイン会場では、一流音楽家によるステージを開催 ・子供も楽しめる「キッズコーナー」を設置 ・JR利用者にJRグッズを進呈						
事業の成果 感想等	・JRを利用した丹波市外からの来場数は前回を下回った。理由としては、ポスター・チラシの作成遅れ及びSNSでの情報発信不足により沿線地域へのPR不足。新たな「集まる仕掛け」を今後も考える。 ・一方、自家用車を利用して来場した方が増えた（駐車場は常にほぼ一杯）。家族連れや他のイベントとハシゴで来られる方が増えたためと考える。 ・近隣の住民には、全世帯に事前にチラシを回覧し告知するなどしていたのでかなり来場していただき楽しんでもらえた。 ・パワースポット探訪ウォークに前回は上回る24人の参加があった。遠方では吹田や東大阪からJRを利用した来場もあった。今回、総数ではJR利用来場者は前回より減ったが、このイベントを定着させていくことによって今後も石生ファン、リピーターが増え、JRの利用促進につながると思う。						
参加人数	大人	70人	高校生	0人	合計	870 人	
	中学生	0人	小学生以下	0人			
	入場者			800人			
事業写真							
	ステージの様子		ステージの様子		観客席の様子		
							
	客席に繰り出し演奏		自然発生的に踊り出すお客様				
							
	キッズコーナーの様子		電車の「顔出し」も人気		キッズコーナーの様子		

No.	9	実施団体名	「注文をまちがえる喫茶店 in丹波」企画実行委員会		区分	提案補助金
事業名称	注文をまちがえる喫茶店「カフェだんない」事業					
事業費	220,076円	補助金確定額	140,000円	実施場所	柏原町「山カフェ」	
事業目的	認知症高齢者の方々の地域での居場所・出会いの機会を広げ、共に生きる仲間としての共感を高めて地域福祉の裾野を広げることを目的に、当事者の方々がスタッフとなって働く「カフェだんない」を2019年度からスタートさせました。新型コロナ禍での中止期間や試行的な再開などの紆余曲折も経ながらも、取り組みを通して当事者・ご家族から参加の喜びのお声を頂くにつれ、こうした機会を継続的に創ることの大切さを実感しています。また、地域の住民自治組織や地元企業などからも継続的にご協力いただいております。また、地域の活動が着実に地域に根差して地域の福祉力の向上に寄与できつつあるものと考えています。					
事業内容	2019年度からのスタート以降、2020年度の新型コロナ禍での中止時期や2021年度からの試行的な再開を経て、2022年度は、顧客接点を高めた「テイクアウト型のカフェ」として6回のカフェを開催することができました（本年2月11日に7回目開催を予定）。新型コロナ禍下において、安定的な開催継続に主眼を置いて進める必要から、換気面にも優れ、スタッフの動線確保なども熟知できている柏原町の「山カフェ」さんを毎回の開催場所としてお借りし実施しました。					
事業の成果感想等	○事業成果⇒ 来店客数は今年度計6回のカフェで1回平均約50名程と安定的に推移しました。また、新聞掲載やInstagram等での広報の成果か、丹波市外からの来店や視察も増えました（三重県、大阪市、神戸市、三田市、丹波篠山市、加古川市、綾部市等）。当事者スタッフは、今年度中に1名増えて通算計9名となりました。新たに、福祉ネイルの方に開店前の施術ボランティアを頂き当事者の皆さんに大好評です。また、大学生2名、高校生2名に新たにボランティアとして参加頂きました。 ○感想⇒ 今年度はテイクアウトでの開催を本格化すると共に、年度途中からはイートインスペースも設け顧客満足度を高めるなど安定的な開催を継続できたこともあり、市外からの来店視察の拡大や新たなボランティア確保など事業運営の裾野拡充につながったと考えています。					
参加人数	大人	人	高校生	人	合計	約300人
	中学生	人	小学生以下	人		
	入場者			人		
事業写真						
	(接客・商品お渡しの様子)			(福祉ネイルの様子)		
						
	(厨房での活動の様子)			(接客・注文受けの様子)		

No.	10	実施団体名	みんチャロン2019 実行委員会		区分	提案補助金
事業名称	みんなのチャレンジトライアスロンin丹波青垣2022					
事業費	2,359,000円	補助金確定額	300,000円	実施場所	丹波市立青垣総合運動公園グリーンベル青垣	
事業目的	スポーツによるまちおこしやサイクルツーリズムが各地域で盛り上がりをもたせる昨今。安全安心に競技ができ、小学生から大人・障がい者までが参加するトライアスロン大会を継続し丹波市の魅力を発信できる機会とする。					
事業内容	イベント名称：みんなのチャレンジトライアスロンin丹波青垣2022 実施日：2022年5月29日（日） 場所：兵庫県 丹波市青垣町 青垣総合運動公園「グリーンベル青垣特設コース」 方法：20年続いたトライアスロン大会（スイム・バイク・ラン）を継業。珍しくプールを使い、小学生や初心者、また季節柄シーズン始めに最適な青垣を舞台にしたトライアスロン大会を開催した。					
事業の成果 感想等	コロナ禍において、常に大会中止も想定にあったが、無事に開催することができた。全項目（参加人数）の通り、例年ほどの参加はなかったものの、十分な参加者があったと言える。特にリレー種目なども導入して新規での参加もあった。また、会場全体として飲食ブースを制限した状態ではあったが、山南地域から化石発掘体験ブースも設置することができ、準備していた量が全てなくなってしまうほどの人気を博した。そのほか、丹波市の観光情報などの資料配布は実施したが、十分ではなかった。コロナ禍で安心して、かつ丹波市を感じられる取り組みを検討していきたい。					
参加人数	大人	104人	高校生	12人	合計	約400 人
	中学生	39人	小学生以下	95人		
	入場者		約150人			
事業写真						
	大会当日受付の様子		バイクパートの様子			
						
	ランパート、ゴールの様子		表彰式（キッズ）の様子			

No.	11	実施団体名	市島町史実研究会		区分	応援補助金	
事業名称	歴楽ICHIJIMAの事業推進						
事業費	194,408円	補助金確定額	50,000円		実施場所	ライフピアいちじま &竹田コミセン	
事業目的	「地域史の共有化による郷土愛の醸成」に向けて、「私たちの身近にも、こんな面白い歴史があったのか!」という”歴楽”の意味合いを多くの人に実感して頂く。						
事業内容	「歴楽ICHIJIMA」を2ヵ月に一度、計6回実施。①4/16大野唯四郎日記を読む(4)(青木正文)②6/18円通寺襖の下張りに見る江戸期市島の曹洞宗寺院(山内順子氏)③8/20梶原遺跡から出土した7世紀の犁(からすき)(山内順子氏)④10/15旧塩津峠の六十六部廻国供養塔(山内順子氏)⑤12/17勝川先生と江戸時代の和算塾(山内順子氏)⑥2/11予定上田天満宮『菅原道真公一代記絵巻』を読む(井上正直氏) *永久保存版として活用してもらえる「カラーテキスト」を作成、参加料500円。						
事業の成果 感想等	コロナ禍の制約のもとで、参加者はやや計画を下回ったが(計画1回平均35人→実績31人)、過去のテキストのバックナンバー(@200)は145冊の売上があり、参加は出来なかったがテキストは手元に置きたいという人が多く、関心の高さが伺えた。今後は、山内順子先生の指導、助言を頂きながら、市島町史実研究会、市島民俗資料館、竹田コミセン歴史資料室などを活動母体に、如何に自主的、継続的な「まちかど文化財」の研究と共有化を図っていけるかが課題となる。						
参加人数	5回で	157人	高校生	人	合計	157人	
	中学生	人	小学生以下	人			
	入場者		157人				
事業写真	 R4・10・15 歴楽ICHIJIMA 「旧塩津峠の六十六部廻国供養塔」 (竹田コミセン) 						
	 R4・12・17 歴楽ICHIJIMA 「勝川先生と江戸時代の和算塾」 (ライフピアいちじま) 						

No.	12	実施団体名	NPO法人住まいの環境研究所		区分	応援補助金	
事業名称	健康住宅に関わる研究と普及を図り指導者の育成をする事業						
事業費	60,973円	補助金確定額	40,000円	実施場所	丹波市エリア		
事業目的	新型コロナウイルスにより人々は家で過ごす時間が増え、住まいが家族団らんの場だけでなく、仕事や学習の場になってきて、住まいの求められる要素が変わってきました。住環境による安定した温度・きれいな空気・確実な換気など誰もが快適で安心に暮らせるようになる知識(安価で取付可能な換気装置を空調との併用するなど新しい現代換気の方法による換気対策を実施して室内空気の入り口と出口を設けて空気の混合を防ぎ24時間換気住宅を必須とする基本的で簡単なしっかりとした換気に対処します。)などを学び確実なエビデンスをもとに住宅の住まい方で住環境を充実したものにします。ただ窓を開けるだけの換気の方法から部屋の空気を混合しないで不要なウイルス(室内浮遊菌・カビダニの粉塵など)を廃棄する換気対策を当たり前の知識と認識するためのセミナー・勉強会の開催をし、健康住宅の相談会開催して地域社会に普及されることや一般住宅から、市営住宅、そして小中学校や公共の施設に使用され健康で快適な住環境が実現される事を目的とします。						
事業内容	・2022年8月13日の県立丹波の森公苑に於いての“新”環境がつくりだす『匠と木工クラフトの未来展』の準備と木工職人さん達の商品の搬入の手配までとチラシの作成をしましたが、数週間前より一気に増えてきました新型コロナの感染の蔓延から木工クラフトなどで多くの人が来られそうなので、急遽延期としました。 ・2022年10月23日(日)午前10時～午後4時まで 県立丹波の森公苑に於いての丹波市産業交流市に参加しました。健康で快適な住環境の実現の為に換気方法や特集としてアレルギー・アトピーなど原因になるカビ・ダニについての資料やパネルなどの展示をしました。思ったより多くの方々がブースに立ち寄り興味がある様子でした。11月13日のセミナーの案内もしました。 ・2022年11月13日(日)午後2時～4時まで 県立丹波の森公苑に於いて生活創造活動グループサポート事業の一環として協力いただいてセミナーを開始しました。家で過ごす時間が増え、住まいが家族団らんの場だけでなく、仕事や学習の場にもなったことで、住まいに求められる要素がわかりつつあります。長く居る住まいの快適さを左右する要素に、温度や湿度、適切な換気が挙げられます。新型コロナウイルス等の家庭内感染を防ぐ方法、アトピーやアレルギーにかかりにくい住まい方、対処の仕方の講演の開催をいたしました。						
事業の成果感想等	健康住宅セミナーの開催に参加された人びとは、住環境の相談などで、換気などの住環境の知識を得ることで、過去から現在における住宅の違いを理解する事で病気になるににくい家への知識と住まい方の対処の仕方を得ることができたと思います。換気などは不快な臭いが減ったり、また風邪などをひきにくい効果がでたりし、温度の調整では血圧が安定する人の声がでています。アトピーアレルギー喘息で困っている人達、また介護を必要とされている人や介護する人や病気の人や高齢者の方々には大変喜んでいただいていると思います。新型コロナやインフルエンザの家庭内感染も防げて健やかに過ごせます。住宅の温度、湿度、換気の知識を持つ事で簡単に住環境に対処でき、住宅と健康にかかわる知識により免疫力があがり、セミナーの参加者が増えていけば、病気になる人が減っていきます。又ここ数年による新型コロナによる社会現象で換気が重要であると少しは認識されてきたと思いますが、具体的にどのように対処できるのかは教科書もないですしまだ浸透されてないみたいに思います。市議員さん達の影響力のある方々の参加により一般住宅から、市営住宅、そして小中学校や公共の施設に使用されていけばと思います。またわかりやすい教材となる小冊子の普及や人びとの住環境による知識対処の仕方でも健やかに暮らせるようになります。						
参加人数	産業市	25人	人	合計	40人		
	セミナー	15人	人				
			人				
事業写真	 						

No.	13	実施団体名	丹波市商工会青年部 氷上支部		区分	応援補助金
事業名称	氷上さくら公園ライトアップイルミネーション					
事業費	87,663円	補助金確定額	48,000円	実施場所	氷上さくら公園	
事業目的	ライトアップイルミネーションという明るい話題を提供し、豊岡道からも見える立地から、通行される他地域にも向けて丹波市の活気をアピールする。また、非集客型のイベントにすることで確実に実施し、たくさんの市民の目につく活動をする。					
事業内容	氷上さくら公園の改修された櫓を中心に、遊歩道や道路に面している木々を電飾等で装飾およびライトアップの実施。改修されたやぐらのふもとに写真を撮りやすいパネルを設置し、SNS等でより多くの人々に情報が発信されるようにした。					
事業の成果 感想等	供給電源の下のブレーカーの容量により、準備していた電飾の全てを設置する事ができなかったが、それでも予想を上回る明るさを放ち、特に豊岡道からの景観は注目を集める事ができたと思う。また、期間中の点検時や撤去作業中に「このままずっと設置しておいてほしい」と声掛けを頂くこともあり、明るい話題を増やせた事を実感できた。					
参加人数	大人	180人	高校生	20人	合計	340 人
	中学生	60人	小学生以下	80人		
	入場者					
事業写真						
	(設営時の様子)			(点灯時の様子)		
						
	(積雪時の様子)			(SNS投稿画像)		

No.	14	実施団体名	鴨庄地区自治振興会	区分	応援補助金	
事業名称	鴨庄小学校閉校記念行事					
事業費	315,460円	補助金確定額	32,000円	実施場所	鴨庄小学校	
事業目的	・ 小学校閉校の周知と、地域が受けた教育活動の恩恵と感謝の気持ちを地区住民と共有する。 ・ 「終わりの始まり」という意識の醸成から新たな地域づくりに繋げる。					
事業内容	鴨庄小学校148年間ありがとう！コンサートの開催 ・ 市島中学校吹奏楽部演奏 ・ 歌うサクソフォンニスト（木寺里穂：鴨庄小学校卒業生） ・ 尺八演奏（井本蝶山：鴨庄小学校卒業生） ・ 鴨庄っ子太鼓（鴨庄小学校児童） ・ 校歌斉唱 ・ 合同記念写真					
事業の成果感想等	予想以上の参加人数で、閉校の関心の高さが伺えた。又コンサートも鴨庄小学卒業生であるプロのライブで盛り上がった。鴨庄小学生は消えゆくが、鴨庄っ子太鼓は吉見小学校で更に力強く生まれ変わろうとする決意を感じる演奏であり、新たな鴨庄地区の地域づくりにも大きな励みとなるものであった。					
参加人数	大人	275人	高校生	10人	合計	350人
	中学生	15人	小学生以下	50人		
	入場者			人		
事業写真						



【お問合せ先】

丹波市 まちづくり部 市民活動課

兵庫県丹波市氷上町成松字甲賀 1 番地

TEL：0795-82-0409

FAX：0795-82-4370